

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験や観察などの体験をさせるなかで授業内容の理解を図り、一定の成果がみられた。
- ・実験や観察などを重点的に行い、まとめと考察を繰り返すことで、思考・判断力、表現力が向上した。

(2) 課題

- ・時間がたつほど知識の定着が薄れるため、定期的に確認させることが必要である。
- ・実験や観察などに対する高い意欲を、学習課題に対する思考力や表現力につなげる必要がある。
- ・各自の苦手な部分、定着が必要な部分を自己分析し、改善に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は思考・判断・表現であった。		
第2学年	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は思考・判断・表現であった。 (第1学年時)	
第3学年	すべての観点で目標値を下回った。前年度と比較して、観点別正答率は上がった。また領域別で見ると地球分野に課題がある。	すべての観点で目標値を下回った。 校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は上がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。 (第2学年時)	3つの観点のうち、すべての観点で目標値を下回った。また、3観点では知識・技能のポイントが一番高かった。 (第1学年時)

## (2) 分析 (観点別)

### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な用語や現象については理解しているが、現象の説明や比較についての知識が定着していない。	自然現象の説明や、実験の目的の考察など身についていない。	正しい実験操作やてこの原理の理解などは身についており、理科への関心は低くはないと考えられる。

### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現象を理解して解答する問題に課題があり、正答率が低い。一方で実験に関する問いにおいては正答率が高かった。	結果を考察して説明する問いに関して正答率が低い。また力や電気などの物理分野における正答率も低い。	最も目標値とのポイント差が小さく、目標値と同程度の正答率のものも多い。その中で実験器具の取り扱いや操作についての理解が進んでいる。

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択肢が与えられている問いの正答率が高いが、短答で書く問題は正答率が低い。また、実験の技能に関する問いの正答率は改善傾向にある。	地球分野に関する問題の正答率が低い。活用に関しては、前年度からポイントが上昇していて、力がついてきている。考えさせる場面を設けていくような授業を展開していきたい。	目標値とのポイント差が広がった。実験・観察を多く授業した結果、主体性が上がってきている。

## 3 授業改善のポイント (観点別)

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着を図るために、ワークシートを用いて演習を繰り返し行う。また、振り返りの時間を設けて振り返りを行う。	実験や観察などで、少人数の話し合い活動を行わせ、探究的に課題に取り組ませることを行う。	教科書で扱う法則や実験などを、身の回りの現象と結び付けさせるように扱い、興味関心を引き出す。またワークシートで振り返りと自己分析を行わせる。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識の定着を図るための復習などを行うと共に、化学・物理分野の目に見えない事象に関して深い理解につなげる取組の工夫を	実験結果から考察につなげる力を養うため、グループ内での話し合い活動を充実させると共に、科学的な見方を養う工夫を行っていく。	身のまわりの事象との関わりや、ICT教材の活用し、興味関心につなげる。また振り返りを行い、自己分析を通して学習方法の改善に努める。

行っていく。		
--------	--	--

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識を定着させるような問題を多く解かせて定着を図る。また、実験操作の技能の向上のために実験・観察の授業を多く設けて、技能の定着に努める。	実験における結果から考察につなげる力を養うため、量や関係性の見方・考え方で実験結果を解釈する活動を取り入れて、思考力を高める授業展開に努める。	学習内容と日常との関連を授業の導入として扱い、さらに主体的に学習に取り組む態度の向上に努める。また、振り返る活動を工夫して学習を調整する力を育む。